平成２２年度　個別支援会議の開催状況（6月～11月）

	年齢	性別	障害種別	開催日	定例・簡易	出席機関														検討事項	結果	課題	出席者数
						本人	家族	障害福祉サービス事業所					その他福祉関係	医療関係	保健関係	就労関係	児童関係	教育関係	高齢者関係	その他			
								相談支援	訪問系	日中活動系	居住系	その他											
11	17	男	知的	6月30日	定例	—	○（両親）	○（4）	—	—	—	—	○	—	—	—	○（2）	○	—	—	児童養護施設入所中で養護学校在学中。卒業後の進路や居住の場について検討	今後考えられる生活スタイルについて情報交換・検討を行った。	居住の場、就労の場の確保、谷間のない支援	13
12	59	男	身体	7月5日	定例	○	○（従兄弟）	○	—	—	○	—	○（3）	○	—	—	—	—	—	—	家族（親族）の高齢化や自宅の老朽化で自宅での生活が困難、居住の場をケアホームに移すための調整	生活面や金銭管理等について確認、必要な支援について調整した	居住の場の確保	8
13	51	男	身体・知的	7月6日	簡易	—	○（父）	○	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○（2）	○	父とのトラブル避けられずトラブルになり勝ちである本者に対しての支援方針検討	本人に適した対応を各事業所で工夫していく		7
14	67	女	精神	7月9日	簡易	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	介護保険非該当のためサービスの利用調整	再度介護認定を受ける。障害福祉サービスでの利用可能なサービスも提案する		4
15	46	男	知的	7月12日	定例	○	○（妹）	○（5）	○	○	○	—	○	○	—	—	—	—	—	—	電話や会話のしつこさなとこだわりのある本者の退院後の生活支援について	単身生活も共同生活も困難に思われたが、本人の生活のイメージを作るため、ショートやケアホーム等サービスの利用体験等を行うこととなった	コミュニケーションや行動パターンの適正化	15
16	65	女	身体	7月22日	簡易	○	—	○	○（2）	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○	—	障害福祉サービスから介護保険へのサービス移行について	サービスの引継ぎ	障害福祉サービスと介護保険の連続性の確保	6
17	26	男	知的	8月18日	簡易	—	○	○（2）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	犯罪行為あり。今後の就労や生活支援について	定期通院の確保や、サービス利用の調整を行う	非行傾向のある方への対応	5
18	46	男	知的	8月23日	定例	—	○（妹）	○（2）	○（2）	○	○（2）	—	○	○	—	—	—	—	—	—	№１５の方について再調整。退院に向けてのサービス調整	本人からの頻繁な相談を病院で受け止め、在宅生活を支える	相談体制の整備	12
19	18	男	重心	8月30日	定例	—	○（母）	○	○	○	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	重症心身障害者の地域での受け入れ態勢整備、家族の負担軽減	受け入れ可能な施設、対応できる人材、サービスの確保	医療行為が必要な方への福祉サービスの整備	12
20	19	女	知的	9月6日	簡易	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	○	—	—	—	—	就労支援を受けている本者の不適応感あり。家族に知的障害や借金問題もあり。今後の支援方針について検討	当面は現状の支援継続。身体面に異常見られれば支援の再考。		6
21	50	女	知的	9月15日	簡易	—	—	○	—	○	—	—	○	—	—	—	—	—	○	—	家事の強制、叩く、食事を抜くなどの虐待と思われる行為が姉よりあり。今後の対応方針について	本人と同居の母の保護について具体的に検討するため、母・本人参加での個別支援会議開催の検討。	虐待ケースへの対応	4
22	26	女	知的	9月28日	定例	○	○	○	—	○（3）	—	○	○	—	—	—	—	—	—	—	療育手帳の取得に伴い、公的サービスへの移行調整	就労継続B型事業の利用に向けて調整	就労意欲の確保	9
23	18	女	知的	9月30日	定例	—	○	○（5）	—	○	—	—	○	—	—	—	○	○	—	—	養護学校卒業と同時に児童施設退所し地域での生活を開始したが、家庭の経済状況も芳しくなく利用料の滞りあり。対応について	利用料回収の方法検討。経済状況芳しくないため、まずは自宅の水道開栓し、生活基盤を整える	経済的な問題ある家族への介入	12
24	19	女	知的	9月30日	簡易	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	№２４の方について再調整。体調不良により職業訓練校に通えないため、今後の支援方針について	本人は職業訓練校の卒業を希望するため、そのための支援を関係者で行っていく		5
25	48	女	精神	10月1日	定例	—	—	○	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○（2）	—	ヘルパーへの苦情が絶えない本者らへの対応とヘルパーの利用について	相談支援による介入は後方へ引き、関係者の連携をもって当面見守り体制をとる	人格障害（疑）の方への対応	5
26	5	男	知的	10月14日	定例	—	○（両親）	○（2）	—	—	—	—	○	○	—	—	○	○	—	—	弟が自閉症、姉が不登校、母が様々な機関に相談している一家への支援について	母の負担軽減、関係者での支援を継続する		13
27	33	男	知的	11月2日	定例	○	○（父）	○	○（2）	○	○（2）	—	○	○	—	—	—	—	—	—	母も知的障害あり家庭生活が不安定な本者の生活支援について情報交換	支援経過の報告や、緊急時の対応、連絡方法など確認	将来的な居住の場の確保	13
28	26 25	男 女	知的	11月9日	定例	—	○（父）	○	○（2）	○（2）	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	父の退職等の変化による支援計画の見直し、将来的な支援計画について	支援計画の見直しを行い、将来の生活設計について、父の意思の確認を行った	将来的な居住の場の確保	8
29	18	男	知的	11月11日	定例	○	○（両親）	○（4）	—	○	—	—	○	—	—	—	—	○	—	—	てんかん発作により自力通学禁止となった本児の通学手段、卒業後の進路について	安全面に配慮され、本人の希望をかなえることの出来る通学手段の検討、卒業後の進路先について検討	通学・通勤手段の確保	11